

想像広がる影の世界

村上誠木版画白黒展

木版リトグラフなど8作品

14日まで喫茶ママ

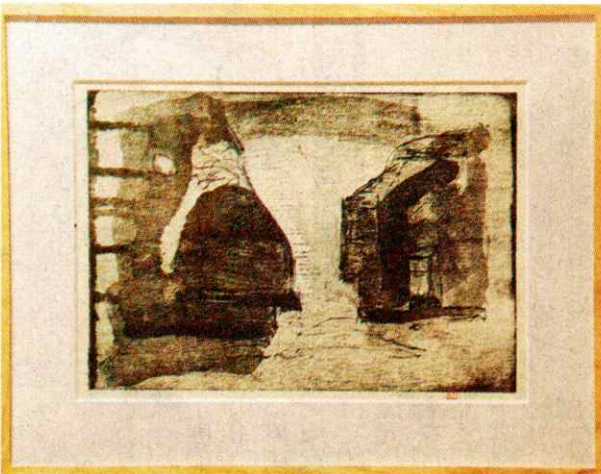
村上誠木版画白黒展が、喫茶ママ(盛岡市本町通り1の8の10)で開かれている。美術家の村上誠さん(76)が木版リトグラフを中心とした8作品を展示。14日まで。

木版リトグラフは、版となる板にリトクレヨンなどで描画して刷る版画の技法。村上さんはベニヤ板を使用しているため、描画だけでなく彫ることもでき

る。そのため、作品によっては技法を組み合わせたものも。一方で村上さんは国史跡志波城跡のそばで暮らしているため、そこから題材を得て制作

しているという。時代を超えて存在する空気について想像を広げながら作品を仕上げていることから、題は「風におよげ」や「風の夜」、「気のはじまり」など。「風の通る道」は、木版リトグラフと彫りを組み合わせて制作。動物などが餌を見つけているのは理由なく歩いているからではなく、生息する草木から通る道

が決まっているため。そのすべてに風が影響していることを表現した。村上さんは「黒というのはいろいろな想像ができる色」と魅力語る。色を付けると見る人はそれ以上想像するのをやめてしまいが、白黒で表現された作品は見る人の想像を広げる。午前11時から午後9時まで。



「風の通る道」



「風の夜」